

UBS 豪ドル・ ボンド・インカム

ケイマン諸島籍契約型外国投資信託/
追加型(豪ドル建て)

交付運用報告書

作成対象期間 第8期

(2017年3月1日～2017年8月25日(早期償還日))

その他の記載事項

運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト(<http://www.sc.mufg.jp/>)の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

ファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社までお問い合わせください。

管理会社

**ルクセンブルク三菱UFJ
インベスターサービス銀行S.A.**

代行協会員

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。
さて、UBS 豪ドル・ボンド・インカム(以下「ファンド」といいます。)は、2017年8月25日に早期償還致しましたので、ここに、運用状況をご報告申し上げます。

ファンドの投資目的は、中長期的に安定したインカム・ゲイン(利子収入等)およびキャピタル・ゲイン(売買益等)の獲得をめざすことです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。

これまでファンドをご愛顧頂き、まことにありがとうございました。

<クラスA受益証券>

第8期末	
1口当たり純資産価格	9.70豪ドル
純資産総額	1,956千豪ドル
第8期	
騰落率	0.02%
1口当たり分配金合計額	0.180豪ドル

(注1)騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

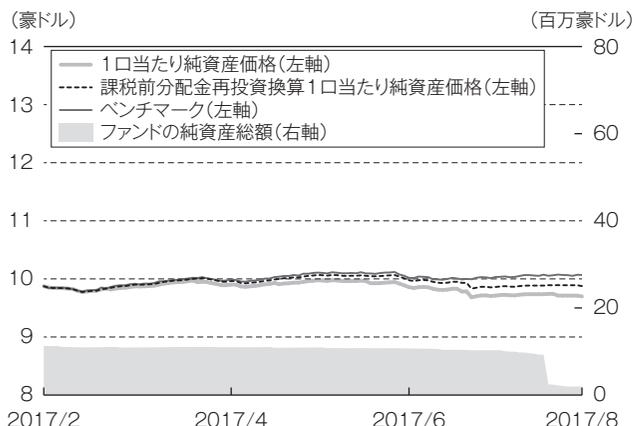
(注2)1口当たり分配金合計額は、税引前の1口当たり分配金の合計額を記載しています。以下同じです。

(注3)純資産総額は、ファンドの純資産総額です。

《運用経過》

【当期の1口当たり純資産価格等の推移について】

クラスA受益証券



第7期末の 1口当たり純資産価格	9.87豪ドル
第8期末の 1口当たり純資産価格	9.70豪ドル
第8期中の 1口当たり分配金合計額	0.180豪ドル
騰落率	0.02%

■1口当たり純資産価格の主な変動要因

当期中のクラスA受益証券の騰落率は+0.02%となり、ベンチマーク+1.96%を下回りました。

当期におけるデュレーション戦略と社債のオーバーウエイトがリターンに対しプラス寄与となりました。一方で、個別銘柄選択がマイナス要因となり、また、管理運営費用がファンドの基準価格から差し引かれたことや8月以降のファンドの現金化がベンチマーク対比ではマイナスとなりました。

*課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

*課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格およびベンチマークは、第7期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

*グラフ中の純資産総額は、ファンドの純資産総額を表示しています。

*ファンドは、ブルームバーグオーストラリア債券(総合)インデックス(Bloomberg AusBond Composite0+ Yr Index)をベンチマークとしますが、ファンドの受益証券1口当たり純資産価格は、必ずしもベンチマークに関連して推移するものではなく、ファンドの騰落率がベンチマークの騰落率と関連することは保証されません。以下同じです。

■ベンチマークについて

ブルームバーグオーストラリア債券(総合)インデックスは、オーストラリアの債券市場を全体的に反映する指数として広く使用されています。

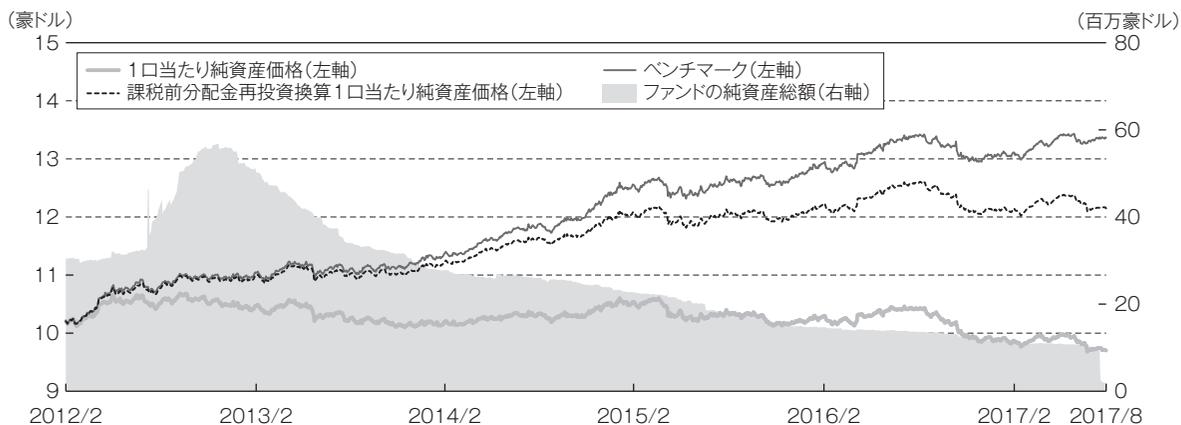
【費用の明細】

項 目		項目の概要
運用管理費用		クラスA受益証券の純資産総額の年率 1.185% (ただし、最低年間報酬が適用される場合があります。)
内 訳	管理報酬(副管理報酬を含みます。)、 保管報酬および 管理事務代行報酬	合計でクラスA受益証券の純資産総額の年率0.10%(四半期毎に後払い) 管理報酬は、信託証書に定める管理会社としての業務の対価として、管理会社に支払われます。保管報酬は、信託証書に定める保管会社としての業務の対価として、保管会社に支払われます。管理事務代行報酬は、信託証書に定める管理事務代行会社としての業務の対価として、管理事務代行会社に支払われます。
	受託報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.01%(四半期毎に後払い) ただし、ファンドに関する最低年間受託報酬を10,000米ドルとします。 受託報酬は、信託証書に定める受託会社としての業務の対価として、受託会社に支払われます。
	投資運用報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.475%(四半期毎に後払い) 投資運用報酬は、関連するファンドのポートフォリオの投資運用、資産の投資および再投資の管理業務等の対価として、投資運用会社に支払われます。
	販売報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.50%(四半期毎に後払い) 販売報酬は、投資者からの申込みまたは買戻請求を管理会社に取り次ぐ等の業務の対価として、販売会社に支払われます。
	代行協会員報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.10%(四半期毎に後払い) 代行協会員報酬は、ファンド証券の純資産価格の公表を行い、またファンド証券に関する目論見書、決算報告書その他の書類を販売会社に交付する等の業務の対価として、代行協会員に支払われます。
その他の費用(当期)	6.87% 副保管報酬、専門家報酬、先物手数料等	

(注)各報酬については、目論見書に定められている料率を記しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額をファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

【最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について】

クラスA受益証券



	第2期末 (2012年 2月末日)	第3期末 (2013年 2月末日)	第4期末 (2014年 2月末日)	第5期末 (2015年 2月末日)	第6期末 (2016年 2月末日)	第7期末 (2017年 2月末日)	第8期末 (2017年 8月25日)
1口当たり純資産価格 (豪ドル)	10.21	10.47	10.19	10.54	10.29	9.87	9.70
1口当たり分配金合計額 (豪ドル)	—	0.504	0.504	0.408	0.360	0.360	0.180
騰落率 (%)	—	7.68	2.22	7.58	1.09	-0.58	0.02
ベンチマーク騰落率 (%)	—	8.18	3.07	10.30	2.97	1.43	1.96
純資産総額 (千豪ドル)	30,557	50,165	27,808	22,707	14,700	11,283	1,956

(注1) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格およびベンチマークは、第2期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注2) グラフ中の純資産総額は、ファンドの純資産総額を表示しています。

【投資環境について】

当期の豪州債券価格は上昇(金利は低下)しました。

豪州のGDPや中国の製造業購買担当者指数が予想を上回ったことなどから金利は上昇基調となり、豪州債券価格は下落して始まりました。その後はトランプ政権の政策実行が遅れるとの見込みや豪州の雇用などの経済指標が弱含むと金利は低下基調となり、豪州債券価格は4月後半まで上昇傾向となりましたが、欧州における政治リスクが一旦後退し、米雇用が堅調であったことが確認されると利上げ観測が高まり、再び豪州債券価格は下落しました。しかし、5月の前半に豪州の住宅指標や小売売上が市場予想を大幅に下回ったことで金利は低下基調に転じ、その後も賃金や建設関連の指標が弱含んだことで金利は更に低下し、豪州債券価格は上昇しました。6月終盤になり、ECB総裁がタカ派的発言をしたことをきっかけに、欧米金利が急上昇すると、豪州金利もつられる形で大幅上昇となり、豪州債券価格は大幅下落となりました。その後、期末にかけては欧米金利に追隨して小幅に上昇する場面もあったものの、豪州の貿易が不冴えであったことやRBAが成長見通しを引き下げたことで金利は徐々に低下し、豪州債券価格は上昇しました。結局前期末比で、豪州債券価格は上昇して期を終えました。

【ポートフォリオについて】

2017年3月1日～2017年5月31日

ファンドは、デュレーションをベンチマークに対し長期化としていましたが、4月に金利が低下したところで一部利益確定を行った後、5月末にかけて残りの長期化した部分をニュートラルに戻しました。イールドカーブ戦略については残存期間4-5年をオーバーウエイトとしました。また、社債におけるインフラ関連やオーストラリアの銀行のシニア債といった景気変動の影響を受けにくいセクターをオーバーウエイトとし、海外の銀行やREITの組み入れをアンダーウエイトとしました。州政府債についてはAA格を選好しました。当該期間中、デュレーション戦略はリターンに対しプラス寄与したものの、個別銘柄選択がマイナス要因となりました。

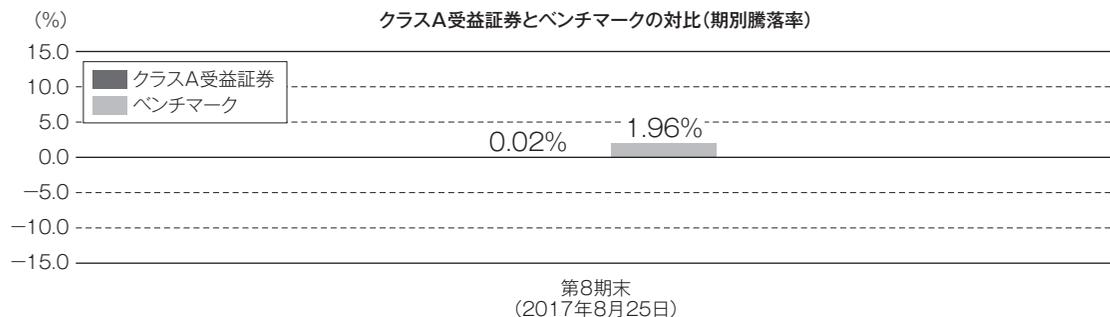
2017年6月1日～2017年7月31日

ファンドは、デュレーションをベンチマークに対しニュートラルを維持しました。同期間中は社債のオーバーウエイトがリターンに対しプラス寄与した一方で、個別銘柄選択がマイナス要因となりました。

2017年8月1日～2017年8月25日

ファンドは、償還の指図を受け、8月上旬にポジションを現金化しました。

【ベンチマークとの差異について】



クラスA受益証券とベンチマークの騰落率の差異の状況および要因について

当期中のクラスA受益証券の騰落率は+0.02%となり、ベンチマーク+1.96%を下回りました。

当期におけるデュレーション戦略と社債のオーバーウエイトがリターンに対しプラス寄与となりました。一方で、個別銘柄選択がマイナス要因となり、また、管理運営費用がファンドの基準価格から差し引かれたことや8月以降のファンドの現金化がベンチマーク対比ではマイナスとなりました。

【分配金について】

当期(2017年3月1日～2017年8月25日)の1口当たり分配金(税引前)はそれぞれ下表のとおりです。なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金額と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

<クラスA受益証券>

(金額:豪ドル)

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金額 (対1口当たり純資産価格比率 ^(注1))	分配金を含む1口当たり 純資産価格の変動額 ^(注2)
2017年3月21日	9.82	0.030 (0.30%)	0.02
2017年4月18日	9.94	0.030 (0.30%)	0.15
2017年5月18日	9.91	0.030 (0.30%)	0.00
2017年6月19日	9.93	0.030 (0.30%)	0.05
2017年7月18日	9.78	0.030 (0.31%)	-0.12
2017年8月18日	9.71	0.030 (0.31%)	-0.04

(注1) 「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率(%)=100×a/b

a=当該分配落日における1口当たり分配金額

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金額

(注2) 「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額=b-c

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金額

c=当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

(注3) 2017年3月21日の直前の分配落日(2017年2月20日)における1口当たり純資産価格は、9.83豪ドルでした。

《今後の運用方針》

ファンドは、2017年8月25日付で早期償還されました。

《お知らせ》

ファンドの運用資産残高が減少したことに伴い、ファンドが行う債券投資から得ることができるインカム収入に比べて運営維持に係る費用が相対的に高くなり、今後受益者の皆さまに適切なリターンを提供することが困難になったため、管理会社は、受託会社との協議の上、2017年8月25日をもって本ファンドを早期償還いたしました。

《ファンドの概要》

ファンド形態	ケイマン諸島籍契約型外国投資信託
信託期間	ファンドは、2010年8月4日より運用を開始し、管理会社が受託会社と協議の上、その裁量により存続期間の延長を決定しない限り、2020年7月31日に終了します。ただし、有価証券報告書に定めるいずれかの方法により当該日までに終了する場合を除きます。 ファンドは、2017年8月25日付で早期償還されました。
運用方針	ファンドの投資目的は、中長期的に安定したインカム・ゲイン(利子収入等)およびキャピタル・ゲイン(売買益等)の獲得をめざすことにあります。
主要投資対象	主として、豪ドル建ての投資適格の公社債(国債、政府機関債、準政府債(州政府債)、国際機関債、社債、ABS(アセット・バック証券)およびMBS(モーゲージ証券)を含みます。)に分散投資を行います。
ファンドの運用方法	管理会社と投資運用およびリスク・マネジメント委託契約を締結している副管理会社は、改訂・再録基本投資運用契約を締結し、投資運用会社にファンドの投資運用を委託しています。 債券運用の戦略策定は、ファンダメンタルズに基づく債券価格のバリュエーションとそれに影響を及ぼすマクロ経済動向の分析、また、ポートフォリオ・マネジャーおよびクレジット・アナリストによる業種別ファンダメンタルズ分析から成るトップダウン・アプローチと、クレジット・アナリストによる個別銘柄リサーチのボトムアップ・アプローチの融合です。これらの情報を基にポートフォリオ・マネジャーが定性判断を加えて、戦略を策定します。定量分析、クレジット・リサーチ、ポートフォリオ・マネジャーの定性判断を組み合わせたチーム・アプローチをとっていますが、オーストラリア債券チーム・ヘッドが債券戦略にわたる全責任を負っています。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ● ファンドについて空売りされる有価証券の時価総額は、ファンドの純資産総額を超えないものとします。 ● 借入れは、原則として、一時的なものに限り、また借入金の残高の総額がファンドの純資産総額の10%を超えない場合に限り、行うことができます。 ● ファンドは、原則として、流動性に欠ける資産に対しその純資産総額の15%を超えて投資を行いません。 ● 同一発行体の有価証券へのファンドの投資総額が、その取得時においてファンドの純資産総額の10%を超える場合、原則として、当該発行体の発行する有価証券に投資することができません。 ● 原則として、同一発行体の発行済債務証券の10%を超えてファンドの資産を投資することができません。 ● デリバティブへの投資(買い持ちと売り持ちのネット合計)は、ファンドの純資産総額の最大50%までに制限されます。
分配方針	クラスA受益証券につき、管理会社は、その裁量により、投資純益、実現および未実現純キャピタル・ゲインならびに分配可能資産から、毎月18日(または、当該日が営業日でない場合は翌営業日)に分配を宣言することができます。

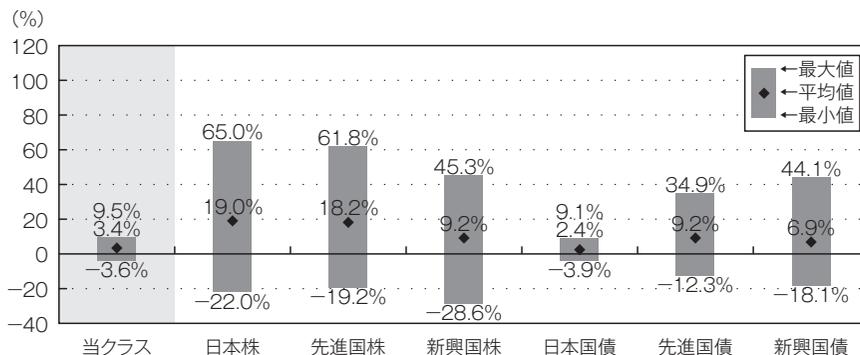
《参考情報》

【ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較】

ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較

このグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、2012年9月～2017年8月の5年間における年間騰落率（各月末時点）の平均と振幅を、ファンドと代表的な資産クラスとの間で比較したものです。

クラスA受益証券



出所：Bloomberg L.P.および指数提供会社のデータを基に森・濱田松本法律事務所が作成

※ファンドの年間騰落率（各月末時点）は、各月末とその1年前における課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を対比して、その騰落率を算出したものです。

※代表的な資産クラスの年間騰落率（各月末時点）は、各月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。

※ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較は、上記の5年間の各月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。ただし、ファンドは2017年8月25日付で償還しているため、ファンドの2017年8月の年間騰落率は、2017年8月25日と2016年8月末日における課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を対比して算出しています。

※ファンドの年間騰落率は、実際の1口当たり純資産価格およびそれに基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率は、豪ドル建てで計算されており、円貨に換算されておられません。したがって、円貨に換算した場合、上記とは異なる騰落率となります。

※ファンドは代表的な資産クラスの全てに投資するものではありません。

●各資産クラスの指数

日本株・・・TOPIX（配当込み）

先進国株・・・ラッセル先進国（除く日本）大型株インデックス

新興国株・・・S&P新興国総合指数

日本国債・・・ブルームバーグ/EFFAS債券・インデックス・ジャパン・ガバメント・オール（1年超）

先進国債・・・シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債・・・シティ新興国市場国債インデックス（円ベース）

（注）ラッセル先進国（除く日本）大型株インデックスおよびS&P新興国総合指数は、Bloomberg L.P.で円換算しています。

TOPIX（東証株価指数）は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、株東京証券取引所が有しています。なお、ファンドは、株東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、株東京証券取引所は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

ラッセル・インデックスに関連する登録商標、トレードマーク、サービスマークおよび著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利は、ラッセル・インベストメントに帰属します。インデックスは資産運用管理の対象とはなりません。またインデックス自体は直接的に投資の対象となるものではありません。

シティ世界国債インデックスおよびシティ新興国市場国債インデックスはCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。

《ファンドデータ》

【ファンドの組入資産の内容】

(第8期末現在)

●組入上位資産

2017年8月25日現在、有価証券等の組入れはありません。

【純資産等】

<クラスA受益証券>

項 目	第8期末
純 資 産 総 額	1,956,499.03豪ドル
発 行 済 口 数	201,747口
1口当たり純資産価格	9.70豪ドル

(注)純資産総額は、ファンドの純資産総額です。

第8期		
販売口数	買戻口数	発行済口数
0 (0)	97,916 (97,916)	201,747 (201,747)

(注) () の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済口数です。